

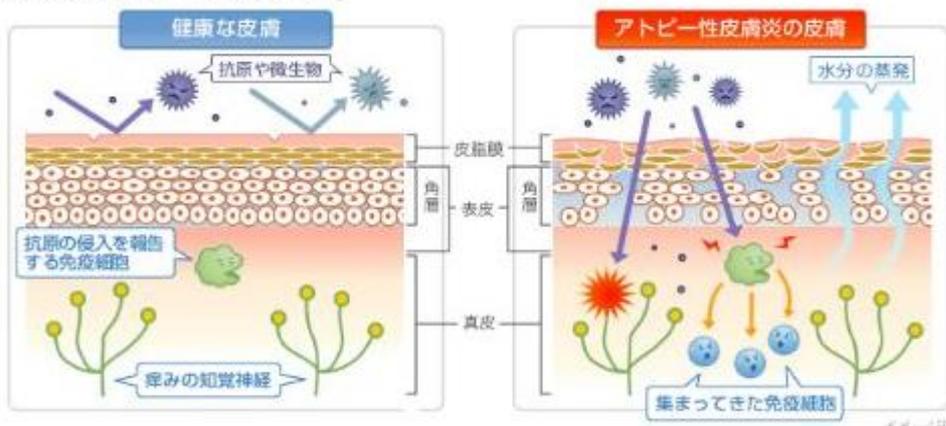


[特集:アトピー性皮膚炎]

アトピー性皮膚炎の「アトピー」とは、「不思議な病気」を意味する言葉です。「強いかゆみのある湿疹」が出て、「悪くなったり良くなったりの状態を繰り返します。家族にアトピー性皮膚炎や気管支喘息、アレルギー性鼻炎・結膜炎などの「アトピー素因」を持つ人がいたり、もともと肌のバリア機能が弱かったりすると、アトピー性皮膚炎になりやすいことがわかっています。

厚生労働省が実施した2014年の「患者調査」によると、アトピー性皮膚炎の総患者数は45万6000人と推計されています。発症すると、かゆみを伴う赤みやブツブツした発疹を生じます。また、アトピー性皮膚炎の特徴として肌全体がかさついています。このような症状は、肌をかきむしることで悪化します。

【健康な皮膚とアトピー性皮膚炎の皮膚】



【かゆみと炎症の悪化サイクル】



<発症する主な原因>

なぜアトピー性皮膚炎が発症するのか、そのメカニズムについてはすべてが明らかになってはいませんが、アレルギー体質のほか、ドライスキン(乾燥肌)で皮膚のバリア機能が低下するなど、遺伝や生まれながらの体質も原因のひとつとされています。

アトピー性皮膚炎の後天的な悪化因子(生まれつきではなく、生まれた後の要因が原因になること)として次のようなものがあげられます。

※ダニ、ハウスダスト、花粉、乾燥、汗、細菌、衣服

<悪化因子として>

刺激物やアレルゲンが原因で皮膚に炎症が引き起こされると、ヒスタミンをはじめとしたかゆみ成分が大量に産生されるようになり、とても強いかゆみを伴うようになります。黄色ブドウ球菌をはじめとした細菌、食物残渣、乾燥、花粉などのアレルゲン。アトピー性皮膚炎の状態に、さらにハウスダストやダニ抗原といった要因のほか、汗などの刺激が加わることで、アトピー性皮膚炎が悪化すると考えられています。衣服では、たとえば機能性インナーが直接触れる刺激などが皮膚炎を悪化させることもあります。

<近年、成人(大人)のアトピー性皮膚炎が増加傾向に>

子どもの頃に発症したアトピー性皮膚炎がそのまま続いている場合もありますが、一度治ったのに、また再発する人や、大人になってはじめて発症する人もいます。皮膚が厚くなる状態(苔癬化)やブツブツが目立つ状態(痒疹)がみられ、かゆみが非常に強くなるため、かき壊して悪化するケースも多くなります。繰り返し、症状が悪化すると治りにくくなります。

<悪化したときの具体的な症状と、悪化を招く原因について>

子どもの頃のアトピー性皮膚炎は、時間の経過とともに自然に治ることが多いのですが、時に思春期や大人になっても症状が続く場合があります。悪化することで症状が長引くため、早めに対処することが大切です。

季節によって良くなったり悪くなったりを繰り返しますが、特に空気が乾燥する冬や春先のほか、夏は汗で症状が悪化しやすくなります。

子どもにおいても大人においても、アレルギー反応自体によって、アトピー性皮膚炎が悪化するケースと皮膚への刺激もあげられます。激しく搔くことで肌が傷つくだけでなく、バリア機能がさらに低下して刺激を受けやすくなってしまいます。そこへ、アレルギー因子や乾燥、汗、寝不足などの後天的な悪化要因が重なることで炎症が起こり、ますます症状が悪化するという悪循環を招くことがあります。